

安倍政権の「死刑」と「戦争」

谷垣法務大臣による5度目の執行

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

6月26日、大阪拘置所で死刑が執行されました。今年になって初めての執行ですが、第二次安倍内閣で任命された谷垣禎一法務大臣は、就任以来、これで計5回、9名の死刑囚を執行したことになります。しかも、このかん、死刑判決確定から執行までの期間はどんどん短くなっています。

☆☆☆

今回執行された川崎政則さんは、2007年11月に起こった「香川県坂出3人殺害事件」で、本人の知的障害や責任能力が問題とされながらも、裁判員裁判の導入前のモデル・ケースとして、わずか4日間の集中審理によって高松地裁で死刑判決を受けました。2012年7月に最高裁で死刑判決が確定し、それから2年も経っていないなかでの執行でした。

☆☆☆

現在の死刑確定者は129人になりました。川崎さんより先に確定している人が百人以上もいますが、再審請求や恩赦の出願を行っている人、高齢となり病床に付しているような人への執行は、国際的にも批判が多いことから控えられています。そして、多くの死刑囚が自分の受けた裁判とその結果に納得できず、それぞれの問題点を再審で訴えています。

☆☆☆

先日都内で行われた執行抗議集会で紹介された本人の直筆のメッセージ（国会議員による死刑確定囚アンケートへの返信）は「私は頭が可笑〔おか〕しいです」と始まるもので、犯した罪の意味、受けている罰の意味を、彼がどれだけ自覚しているのかさえ疑われるものでした。

自己を弁明し、弁護する力を持てなかった人たちから、死刑が決まり、執行されているのです。

☆☆☆

第一次安倍内閣の際にも、当時の長勢甚遠法相は一年間に10人もの死刑を執行しました。安倍政権の姿勢は、明らかに死刑制度を積極的に活用、推進、強化しようとするものです。死刑もまた安倍首相のめざす「戦争のできる国」には必須のアイテムなのでしょう。